

平成30年度 第2回 碧南市図書館協議会 会議録

1 日時

平成31年2月21日（木）午前10時～午前11時30分

2 場所

碧南市民図書館 2階会議室

3 出席者

(1) 出席委員

水野利亮、宮本美枝子、石川和昌、小島真由子、磯貝孝行、杉浦正勝、
広田吉一、油谷修子、神谷俊幸、森田恭子

(2) 欠席委員

なし

(3) 事務局職員

教育長：生田弘幸、教育部長：奥谷直人、文化創造課長：鈴木利男、
市民図書館副館長：関由香、南部分館長：大橋幹広、
中部分館長：長谷川有里

4 傍聴者

0名

5 協議会内容

市民憲章唱和

(1) 教育長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 議題

ア 「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」の進捗状況について

「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」がスタートしてから1年が経過したため、平成29年度分の進捗状況について報告する。資料「進捗状況（前期）」の表の縦軸にある、「1 豊かな情報源としての図書館」、「2 誰もが利用しやすい図書館」、「3 地域の歴史や文化・産業を育み、次世代へとつなぐ図書館」、「4 市民とともに進化する図書館」とは、図書館サービス計画を構成する4つの柱である。各柱の中の事業名の横にある、「A」「B」「C」という記号は、「A」が、計画策定前から実施していて、今後も継続して実施していく事業。「B」は、計画中に新規で実施する予定の事業。「C」は、事業を実施する前に、越えなければならないハードルがあり、そのハードルをどう越えるか検討し、越える方法が見つかれば、計画期間中に実施する事業である。すべての事業の進捗状況について報告するには時間が足りないため、今回は数字で報告できるものを中心に、要点のみを報告する。まず、「1 豊かな情報源としての図書館」のうち、「碧南市に関する資料の積極的な収集」について、平成28年度は、新規で371件の郷土資料を受け入れた。郷土資料とは、碧南や愛知に関する資料のことを指し、ほとんどの資料が市販されていないものである。そして、平成29年度に新規で受け入れた郷土資料の数は481件と、昨年度より大幅に増えた。増加した理由は、碧南市が作成したパンフレット類も新たに登録（受け入れ）したためである。最近では、インターネットで情報を収集することが多くなったが、ネット上では、新しい情報を見ることはできても、古い情報は見られなくなってしまふ恐れがある。そのため、古い情報でも調べられるよう、紙媒体で情報を残しておく必要がある。例えば、現在、商工課がPRしている「竜の子街道」について、10年後、20年後に、昔の様子を知りたいと思ったとき、ネット上では調べられなくても、図書館に来れば、必要な情報が得られ

るよう、書籍に限らず、パンフレット類なども郷土資料として登録しておくことが大切である。

次に、「芸術文化ホールの催事に関連した資料の収集」について、平成29年度の資料受入数は、平成28年度からそれほど増えてはいないが、図書館の隣にある施設ということもあり、芸文ホールで演奏するアーティストのCDを購入したり、催事内容に関する書籍なども購入している。

また、「多言語や字幕入りの映像資料の収集」にも心がけており、平成28年度の新規購入数は多言語が14点、日本語字幕が27点。平成29年度はさらに増え、多言語が26点、日本語字幕は38点購入している。

次に、「(2) 資料の保存と廃棄」について報告する。図書館が、効率的かつ適正に蔵書を保存しているか確認するための指標として、「蔵書更新率」と「蔵書新鮮度」がある。まず、「蔵書更新率」とは、人間の体で例えるなら、古い細胞を捨て、新しく生成された細胞が体全体に占める割合をあらわしたもので、平成28年度は4.15%で、平成29年度は3.8%であった。次に、「蔵書新鮮度」とは、蔵書全体のうち新しい本の占める割合のことで、平成28年度は2.21%、平成29年度は2.04%であった。どちらの数字も昨年度より若干低くなっている。「蔵書更新率」に関しては、昨年度と比較して除籍数が減ってきているのが原因と考えられる。一般的に、図書館の資料というのは、資料が古くなればなるほど貸出利用が減ってくる。そして、この「蔵書更新率」が下がれば下がるほど、主に、娯楽のために資料を借りる一般利用者からすれば、図書館にある資料は古いものばかりで魅力が乏しいと感じられてしまう。一方、調べ物のために図書館を利用する人は、古い資料こそ必要としているため、図書館としては、どの資料を残していくのか、どうバランスをとっていくのか、考えながら運営していく必要がある。

次に、「(3) インターネットを使ったサービスの活用」については、今年度進歩があった。まず、1つは、有料のデータベースが一つ増えたこと。そして、もう1つは、平成30年度に持込みパソコン専用席を設置したことである。

「(4) レファレンスサービスの強化と活用」について、レファレンス件数は平成28年度が6,714件、平成29年度は若干増え、6,976件であった。図書館には、本と人をつなぐという大きな役割がある。利用者の求める資料が図書館にあったとしても、探し出せない利用者は、みなさんが思っている以上に多い。碧南市の図書館は開館当初からレファレンスサービスに力を入れてきたため、利用者にもレファレンスサービスが浸透している。平日でもカウンターに座っていると、何人でも、続けざまに調べ物の相談に来られる。近隣の図書館と比較しても、当館のレファレンス件数は多い。なお、6,976件の中には、簡単な内容のレファレンスも含まれている。

次に、「(5) - ①のホームページの活用」について、ホームページのアクセス数で比較すると、平成29年度は前年度より若干減っている。これは、図書館資料の貸出が減少するにつれ、以前ほど、ホームページから資料の予約や、検索をする人が減ったことが要因と考えられる。

次に、「(5) - ②広報や地域紙等の活用」について、各種媒体の取材数で報告する。平成29年度は、平成28年度より新聞が1件増えて4件。ラジオは3件増えて4件。K A T C Hの取材も1件増えて3件であった。これらは、図書館から報道関係者へ、イベント情報を事前に伝える「報道発表」というものを行うことにより、取材に来てもらった数である。また、地域紙については、フリモかわらが、10件から18件と増えた一方で、たんぽぽニュースが減った。

続いて、「(5) - ③図書館キャラクター「へきにゃご」の活

用」について、活動回数が昨年度と比較してもかなり減っているが、これは、平成28年度に、南部分館が例年以上にへきにゃごの活用に努めたためである。

次に、「2 誰もが利用しやすい図書館」という柱の中の「(1) - ①子ども・ヤングアダルト」について報告する。「市民図書館の団体貸出の活用」については、平成29年度は前年度と比較して少しばかり減少しているが、これは、クラス数の減少によるものと思われる。また、「各教科における調べ学習に役立つ資料の充実」については、古くなった資料を除籍したことで、数は少し減ったが、ほぼ横ばいの状態である。「としょかんキャラクター「へきにゃご」を活用した図書館のPR」については、平成28年度は62回で、平成29年度は45回。「団体貸出用の外国語図書の充実」は横ばいである。

次に「(1) - ②成人へのサービス」について報告する。「知的好奇心を刺激するような講座等の開催」とあるが、これは、いわゆる大人向けの講座のことで、平成29年度は前年度より増え、4件であったが、平成30年度は2件に減った。現在、成人へのサービスとして、3館が力を入れているのは、時事問題を取り入れた複数の小規模特集コーナーの設置である。小規模特集コーナーの設置数は、平成28年度から平成29年度にかけて、一般は61件から74件と増え、児童はほぼ横ばいで、AVは少し減っているが、その分一般を増やしている。それから、シニア層へのサービスとして、読みやすい活字の文庫本への買い替えを進め、平成29年度は前年度より大幅に増やした。朗読CDに関しては、あまり良い資料がなかったため、平成29年度の新規購入数は7件と少ないが、今年度、来年度と、長期計画的に購入を進めていきたい。また、最近では、高齢者施設向けの紙芝居利用が多くなり、高齢者向けの紙芝居も市販されるようになってきている

ので、平成28年度から購入を進めている。平成28年度は6件、平成29年度は8件と、わずかではあるが増えている。さらに、障害者サービスの充実のため、耳が不自由な方にもDVDを楽しんでもらえるよう、日本語字幕入りのDVD資料の収集も心がけており、新規購入数は、平成28年度が27点、平成29年度は38点である。

外国人向けの「(3) 多文化(国際化) サービス」については、平成29年度は、資料がうまく探せず、購入はしていない。平成30年度も購入を進めているが、何年かかけて進めていきたい。最近では、外国の方が、日本語を学ぶためとか、日本を知るための資料として、英語が併記されたものや、英語で日本文化を紹介するものも出てきており、平成29年度は5冊購入した。また、市役所も、外国人向けの行政資料を出しており、平成29年度は、英語、ポルトガル語、スペイン語の3か国語で発行された碧南市のハザードマップを図書館資料として受け入れている。

「(4) 未利用者への働きかけ」として、「話題となるようなイベントの開催」については、行事参加人数は、平成28年度も、平成29年度もほぼ同じである。

「3 地域の歴史や文化・産業を育み、次世代へとつなぐ図書館」の「(2) 地域の企業や団体との連携」については、平成28年度から、こどもたちを連れて、地元企業へ工場見学に伺っている。平成29年度はスギ製菓さんで、今年は伊藤忠製糖さんを見学させてもらった。また、図書館友の会はじめ、ボランティアグループのみなさんとも、例年通り継続して、共済事業などを行っていく。

「4 市民とともに進化する図書館」の「(3) 市民の声に耳を傾ける体制づくり」については、図書館ホームページに、「お問合せフォーム」という、いわゆる「ご意見箱」みたいなものを用意して、寄せられた質問・意見に回答している。

平成29年度は、平成28年度の6件から13件に増えた。今回、事業の進捗状況を数字で報告したのは、図書館の業務というのは、開館しているだけで終わってしまうこともあるが、きちんと報告ができるよう、資料を収集することを心掛けつつ、図書館協議会のみなさまにもご意見をいただきながら、今後も進めていきたいと考えている。引き続き、みなさんには、図書館へのご協力をお願いしたい。

会 長

質問や意見はあるか。

A 委 員

碧南市に関する資料等を所蔵するのは良いことだと思うが、収集する資料の範囲はどこまでか。例えば、まちづくりに関しては、各地区でそれぞれ活動をしており、「あいくる」さんのようなボランティア団体もいる。図書館として、ボランティア団体の資料は、どのくらいの範囲までを収集しているのか。

事 務 局

基本的には、公的機関が発行する資料と、地区の歴史に関する資料を収集している。ご質問の意図としては、ボランティア団体のあいくるさんが、毎月発行している「たより」みたいなものまで収集しているか、ということだと思うが、残念ながら、そこまでは収集していない。年報など、今までのボランティア活動をまとめたものが、図書館に送られてくれば、所蔵資料とすることもありますが、毎月の「たより」までは、地域資料として収集していない。ただし、市の施策に関係するようなものであれば、パンフレットやチラシも含めて収集している。

B 委 員

雑誌のスポンサー制度について、平成30年度については、この場では結果報告できる状況ではないかもしれないが、進捗状況はどうか。スポンサー制度について、他市の状況と、その評判についてはどうか。また、スポンサーになった際の限定（特権）として、自分が使いたい雑誌を図書館に入れることができるのか。それと、スポンサーから図書館へ、図書

館に入れてほしいと、要望された雑誌はあるか。

事務局

現在、スポンサー制度に関する情報収集を行っている。インターネットで導入館を調べ、電話で聞き取り調査をしている。近隣だと西尾市が導入しているが、その方法としては、図書館が入りたい雑誌のリストを先方に渡し、その中から先方が買って良いと思う雑誌を選んで、スポンサーになってもらう方法である。このように、図書館の購入雑誌のリストから、企業に選んでもらう方法で実施しているところがほとんどである。当館も導入したいと思って、動いてはいるが、図書館の事情で進められていないのが本音である。来年度こそは本格的に動いていきたいと思っている。

C 委員

とても多くの事業を実施されているのが、この進捗状況の一覧を見てよくわかった。すべての事業を網羅しながら、これらの事業が今後も継続できるよう、心掛けていくという発言に感銘を受けた。

この事業の一覧の中で、2点教えてもらいたいことがある。1点目は、外国語で書かれた行政資料の収集についてである。現在、学校でもいろいろな国の人たちがいる。碧南市のハザードマップについては、ポルトガル語とスペイン語と英語があるとのことだが、今後、さらに、他の言語に広がっていく予定はあるのかということ。2点目の質問は、「他機関と連携できる企画の発案」というところで、さまざまな会社へ工場見学に行っていると聞き、図書館がそこまでするのかと驚いたが、工場見学みたいな事業が、図書館の業務にどうつながっていくのか教えて欲しい。

事務局

まず、1点目の外国の方向けの資料について、現在、行政資料に関しては、図書館主導ではなく、市役所が主導であり、市役所が作成したものを受け入れている。図書館の資料については、学校においても、いろいろな国の子どもたちがいると聞いているので、どう対応していくか、現在、情報収集を

している。ただ、外国語資料はなかなか手に入りづらく、購入も難しい。今後、技術的に電子図書などが進歩すれば、そういった課題にも対処できると考えているが、導入にふみきれるかどうかは、検討する時間が必要である。2点目の「他機関と連携できる企画」については、もともと、図書館では夏休みに、調べ学習講座を開催しており、子どもたちが好きなテーマに沿って、図書館の資料やインターネットなどで調べ、紙にまとめるというものである。その調べ学習の一環として、碧南のことを、子どもたちにもっと知ってもらおうという思いから、市内の工場見学がスタートした。第1回目は図書から近い工場で、かつ地場産業ということで、白しょうゆからスタートした。それ以降も、子どもたちが興味を持ちそうな、碧南市内の会社に依頼し、工場見学を続けている。子どもたちは、工場見学から戻ってきたら、調べた内容をまとめ、それを紙に書いて、図書館で展示するまでを調べ学習の一環として事業を実施している。

C 委 員 工場見学は調べ学習をサポートしているということが理解できた。

B 委 員 「高齢者施設向けの紙芝居などの購入」という項目について、これは、具体的には、どのような施設が使っているのか。また、高齢者施設での使用方法としては、施設の担当者が図書館に借りに来て、施設の担当者が高齢者の前で読むということか。図書館は貸出するだけなのか。

事 務 局 図書館は紙芝居を貸出しているのみ。デイサービスの職員や老人福祉施設の職員がよく借りていく。高齢者向けの紙芝居などは、まだ、市販されている物も少ないが、今後、徐々に入れていく。高齢者向けの紙芝居の内容としては、『愛染かつら』や『金色夜叉』、『曾根崎心中』などといった高尚なものから、『ももこさんとオレオレ詐欺』というような、高齢者に注意喚起するような内容の紙芝居もあり、現在10点を

所蔵している。

会 長 幼児向けや、私のような高齢者向けなど、(さまざまな年代への配慮が必要で)図書館も大変だろうが、図書館をより充実してもらえるとありがたいと個人的に思っている。

「(3) インターネットを使ったサービスの活用」にある、「国立国会→31回」というのは、国立国会図書館のデータベースを31回利用しているということだと思うが、その下の「Law」とは何か。

事 務 局 昔は「現行法規総覧」と言って、現代の法律を網羅した資料が図書館にあった。この資料は、法律の改正があると、新しい内容のページとさしかえる、加除式の資料として受け入れていたが、さしかえるのに費用がかかっていたため、現在は、検索しやすいデータベースへ移行した。そのデータベースが「D1-Law」であり、資料に書いてある「Law」とはこのことである。法律の変遷も調べられるし、検索した1つの法律に対し、関係する法律も表示されるので便利である。

会 長 B委員が言っていた雑誌の件について、個人的な意見だが、図書館の資料購入予算の減少に伴い、雑誌の購入数も減少しているので、ぜひスポンサーについてもらい、雑誌がより増えれば、ありがたいと思う。

(イ) 平成31年度の事業計画について

事 務 局 平成31年度の事業計画について、本館、南部分館、中部分館の各担当者から説明する。

まず、レジメの3ページ「平成31年度市民図書館事業計画」には、本館の年間行事一覧がある。来年度、新規事業は特にないが、継続してきた事業内容を変えつつ、今年度と同数くらいの事業を実施していく。

南部分館長 南部分館の平成31年度の事業計画について説明する。同資料の5、6ページにある事業を実施する予定である。平成3

1年度も、南部市民プラザとの複合施設という点を生かし、6月と8月に、アリーナ（2階の体育館）を利用したおはなし会を計画している。どちらも幼児から小学校低学年向けの行事になる。この年代の子どもたちは、1階の図書館にはよく来ているが、2階がどうなっているのか知らないことが多く、おはなし会がきっかけで、2階に初めて来るといふ親子連れも多い。こういった行事を通して、図書館だけでなく施設全体をPRすることも有効だと考えているので、今後も継続していきたい。その他、定例行事で行っている「おりがみしたいむ」、「えほんといっしょに」も参加者が増えている。「おりがみしたいむ」は、貸出カウンターに完成見本を置いて、子どもたちにPRしている。この行事に参加したことのある子どもたちが、次の開催日には、友達を連れて参加してくれることもあり、参加者が増えた。さらに、行事に参加した子どもたちが、帰りに絵本を借りていってくれるなど、相乗効果もあるので、今後も引き続き、内容を充実させつつ、継続していきたい。また、例年2月になると、大人を対象とした事業も実施している。今年も2月10日に「大人のための折り紙教室」を実施した。例年なら平日に開催していたが、他の利用者から、土日開催なら行けたのに、という意見が多くあったため、今年は日曜日に実施した。しかし、今度は、日曜は参加できないという声がたくさんあがり、来年度はどうするか迷っている。委員のみなさまのご意見も参考にできればと思う。

中部分館長

平成31年度に予定している中部分館の事業について説明する。本館や南部分館と同様に、毎月定例で実施している、対象年齢別の「おはなし会」や「こどもとしょかんまつり」、「秋の読書月間」、「へきにゃごまつり」などを開催していく予定である。「春休み工作教室」や「こどもとしょかんまつり」の工作教室では、本年度から事前申し込み制ではなく、

開催時間に会場に来た、すべてのこどもたちが参加できるようにした。このように、利用者がより参加しやすい形で、行事を開催していきたい。また、12月には、「大人のための工作教室」として、干支人形作りの教室を開催する。この事業は、平成31年度で3回目となる。来年の干支は子（ねずみ）だが、『ぐりとぐら』はじめ、ねずみを主人公にした絵本のキャラクターはたくさんある。そこで、絵本のキャラクターに似せた干支人形を講師に作っていただき、絵本とタイアップして紹介できるようにしたい。今後も、定例のお話会や図書館資料を活用した工作教室等、中部分館の利用者のニーズにあわせた催しを行い、利用促進に努める。

会 長

質問や意見はあるか。

B 委 員

中身をよく承知していないので、教えてもらいたいことがある。各館とも、開催予定行事の一覧に「学校訪問」がある。開催時期は随時で、「学校の授業等でブックトークの実施」をするとある。現実的には、市内に図書館が3館あるので、各館で担当する学校は違うと思うが、どのような内容で実施しているのか。また、何年生を対象としているのか。さらに、学校訪問と関連して、各学校で実施している10分間読書の時間で、図書館から貸し出した本が利用されているのか。それとも、10分間読書で読む本は、学校独自で用意したもの、もしくはこどもたち自身が用意したものを読むのか。また、資料では、各学校でのブックトークの開催は随時となっているが、大体でいいので、何回くらい実施しているか教えてほしい。つまり、図書館と学校との接触の度合いを知りたい。

事 務 局

学校訪問は、過去に、学校司書がいなかったときに何度も実施していた。しかし、学校図書室に学校司書が配置されるようになってからは、図書館からお伺いすることは、ここ数年間ずっとなく、実際は0件である。ただ、もし、学校から図書館へご依頼があれば伺うつもりでいるため、実績は0件で

も、事業予定としてそのまま残している。以前、学校訪問をしていたときは、4年生の全クラスに、ブックトークで本を紹介してもらいたい、とか、1年生が受けている授業内容に関連する本を紹介してほしいという内容の依頼があった。今は、そういった役割を学校司書が担っている。学校訪問という事業が無くなったわけではなく、主体が図書館から学校司書に変わったということ。また、朝の10分間読書に関しては、1学期ごと、1クラスに1箱50冊単位で図書館から学校へ本を貸し出す「団体貸出」を活用してもらっている。1ヶ月ごとに、1組にあった本の箱が次は2組に、という流れで、学期中はクラス間で箱ごとまわしながら、図書館の本を読んでもらっている。本の箱は、常に教室に置いてあり、子どもたちもすぐに手に取れるので、10分間読書に利用できるのはもちろん、10分間読書時間以外でも、空き時間に本でも読もうかな、と思った時などに利用してもらえる。子どもたちが、すぐに本を手にとれるような環境を整える、という意味でも、団体貸出は有効活用されている。

副 会 長

図書館が市民に向けてアプローチをしはじめていることが、とても感じられる。たとえば、市民病院で、新生児の保護者を対象に（絵本の読み聞かせの方法を）指導したり、高齢者にもさまざまな対応をしており、そういう意味では非常にすごいと思う。ただ、もう少し、エネルギーのある高齢者のグループに、図書館業務に協力をしてもらってはどうか。高齢者の中でも、いろいろなボランティアに参加したり、ウォーキングをしたり、元気な人たちがたくさんいる。そういう人たちを対象に、定期的に図書館のボランティアを募ってはどうか。たとえば、本が返ってきたときに、しっかりときれいに拭く作業や、ブッカーをかける（本にカバーをかける）作業などしてもらってはどうか。言葉は悪いかも知れないが、いわゆる単純作業なら、やりたいという人もいない

か。また、本の廃棄など、労働作業にも高齢者をうまく取り入れていければ良いと思う。このようなボランティア活動が、高齢者の生きがいにもなるだろうし、図書館に目を向けてもらえる1つのきっかけになる。それに、子どもたちはすでに、学校でいろいろなことをやっている。

10分間読書にしても、図書館と学校が何年来も継続して、連携しているのは素晴らしいと思うし、市民病院や、高齢者世帯にも注目して事業を実施しているのは素晴らしい。

D 委 員
事 務 局

地場産業の工場見学は、どのくらい集まるのか。

定員は親子15組で、毎年、ほぼいっぱいになる。15組といっても、1組につき子どもが2人いる場合もあるため、参加人数は30人ぴったりではないが、およそ15組が集まる。

D 委 員

地場産業といっても、今まで見学したのは、すべて食べ物の工場ばかり。集まりやすいからだと思うが、たとえば、今度リニューアルする水族館のバックヤードとか、このあたりの地場産業と言え、瓦関係の工場など、他にも見学先は結構あると思う。子どもたちにも、きれいな所ばかりでなく、少し汚れたところ（窯業の製造現場など、いかにも工場というようなところ）を経験してもらうのも良いのではないか。

事 務 局

来年の工場見学は、瓦工場を予定しており、栄四郎瓦さんと調整中である。図書館としても、工場見学は始めたばかりの事業なので、子どもたちは、どのような産業に興味を持ってくれそうか、考えながら見学先を探している。地場産業として、みりんも考えたが、工場見学を実施する夏の期間は、みりんの製造工程と合わなかったり、みりんにはアルコールが入っていたりと、子どもの工場見学先を探すのは、なかなか難しい。できるだけ、子どもたちが工場内をいろいろ見てまわられて、なおかつ、受け入れてくれる会社限定となるが、今後も継続していきたい。

(ウ) 意見交換

会 長

委員より、いろいろな意見も出てきたので、平成31年度の事業計画についての質疑応答は終了し、次に意見交換に入りたいと思う。意見でも、質問でも、どんなんことでも良い。図書館運営についてはもちろん、本来、この意見交換は、館長に直接意見を述べる場なので、館長への意見でも結構。なにかあるか。

E 委 員

御礼も兼ねて、先日のリサイクル本バザーの報告をしたい。会長には、何度も会場に足を運んでもらって恐縮であった。みなさんのおかげで、リサイクル本バザーは無事終了した。この場を借りて、感謝申し上げる。今年は、2月2日、3日で実施したが、2月3日は選挙がからんだせいとか、小説本の用意が少なかったからなのか、インフルエンザの影響なのか、前回より参加者が120人くらい少なく、とても残念であった。毎年、市民提供だけで2千冊以上のリサイクル本が集まる。前は約2千冊、今年は2,430冊と、結構な数が集まった。図書館からも2,200冊ほど提供してもらい、2階の会場は段ボール箱でいっぱいになった。さきほど、宮本委員のお話にもあったように、シニア世代が、リサイクル本バザー開催に尽力している。開催にあたり、図書館の読書グループの中から有志を集めるのだが、ほとんどがシニア世代である。みんなでがんばって本を集め、本の入った箱を会場に並べて、後片付けまで、すべて行い、無事行事を終えることが出来た。しかし、今回のリサイクル本バザーは、集客が少し芳しくなかった。前回、本を購入した人は566人であったが、今回は488人。前は3,333冊売れたのに、今回は2,470冊であった。時代性や、本を読む人が少なくなってきたせいなのかもしれない。市民から提供された本といっても、要は廃棄本なので(買いたいと思わないのかもしれない)。それでも、提供本の中には、購入してから1年

も経ってなさそうな、新品みたいにきれいな本もあった。どうしてあまり本が売れなかったのか。時代ということなのか。ひとまず、以上が、リサイクル本バザーの報告である。みなさんのご協力に感謝する。

会 長

その他、ご意見、ご質問はないか。

リサイクル本バザー開催については、広報へきなんにも掲載されていたが、図書館の入口付近に、B紙みたいな大きな紙で、視覚に訴えるような告知ポスターがあれば、利用者にもっとアピールできて、良かったのではないか。

何か、他には。

B 委 員

南の駐車場の入口付近に、新たに整備された駐車場がある。まだ使われていないようだが、いつ頃から使えるようになるのか。

館 長

第8駐車場のことだと思うが、現在の第8駐車場を拡張する形で工事を進め、今は工事も終了して、2月末に検査をする。今のところ、3月1日に供用開始する予定。わずかだが、利用者駐車場が9台分増えた。

会 長

他に何か質問はあるか。無いようなので、これで会議を終了する。

事務局

1点連絡がある。図書館協議会の委員の任期は、父兄の会の代表以外は2年である。なお、次回は、平成31年7月頃に開催する予定。開催通知は郵送するので、出席をお願いしたい。